岩手県感染症週報

令和6年第45週 （11月4日～11月10日）　　岩手県感染症情報センター

第45週の概要

「岩手県-新型コロナ対策パーソナルサポート（@iwatevscovid19）ID検索またはQRコードから友達追加

1類感染症
・患者発生の報告はありませんでした。

2類感染症
・結核の報告が４例ありました。

3類感染症
・患者発生の報告はありませんでした。

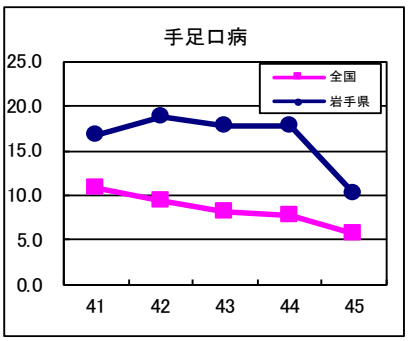
4類感染症
・つつが虫病の報告が１例ありました。

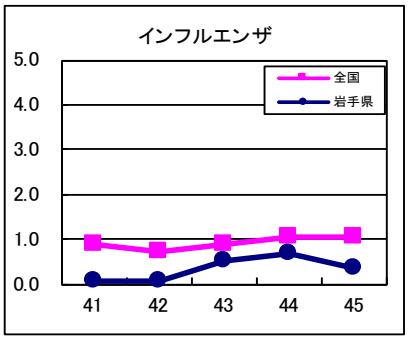
5類感染症（全数把握対象疾患）
・カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症の報告が２例ありました。
・劇症型溶血性レンサ球菌感染症の報告が１例ありました。
・梅毒の報告が１例ありました。
・百日咳の報告が１例ありました。

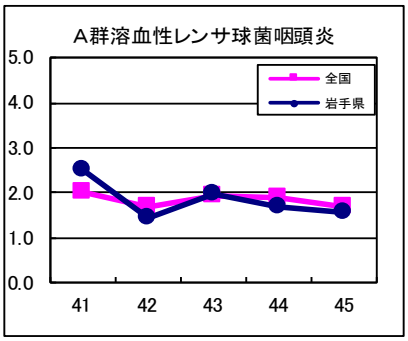
5類感染症（定点把握対象疾患）
・手足口病は減少し、定点当たり患者数は10.13人となりましたが、警報値（５人）を超えています。1999年に調査開始以降、最多の流行となっています。本症は、口内や手足に水疱性の発疹が現れるウイルス性感染症です。予防には手洗いやうがいのほか、患者との濃厚接触やタオルの共用を避けることが重要です。
・新型コロナウイルス感染症は増加し、定点当たり患者数は3.48人となりました。県内のクラスターの発生は６件で、その内訳は高齢者施設４件、医療施設１件、福祉事業所１件でした。高齢者や基礎疾患のある方は重症化のリスクがあるので注意が必要です。高齢者等を対象としたワクチンの定期接種が実施されています。詳細はお住まいの市町村にご確認ください。
・感染性胃腸炎は減少し、定点当たり患者数は2.63人となりました。集団発生事例が教育保育施設で３件ありました。胃腸炎ウイルスは消毒用アルコールが効きにくいため、石けんと流水による手洗いが重要です。調理や食事の前、トイレの後は手を洗いましょう。患者の吐物や便は、使い捨て手袋とマスクを着用して塩素系消毒剤で処理してください。
・インフルエンザによる学校等休業措置が１件ありました。全国的には流行入りしています。手洗い、マスクの着用等基本的な感染予防対策を行いましょう。

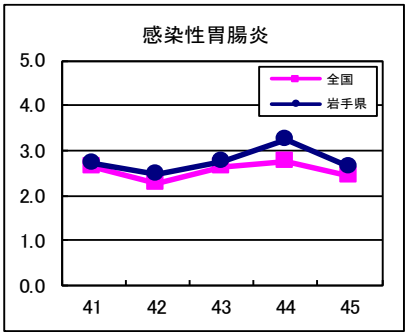
最近の注目疾患（定点あたり患者数の過去５週の動き）

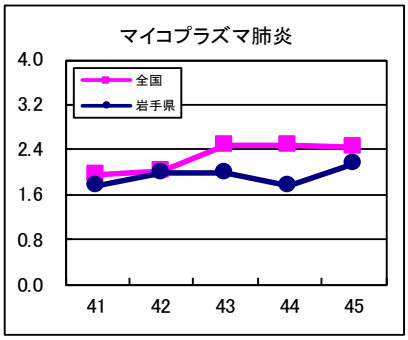
（疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意）

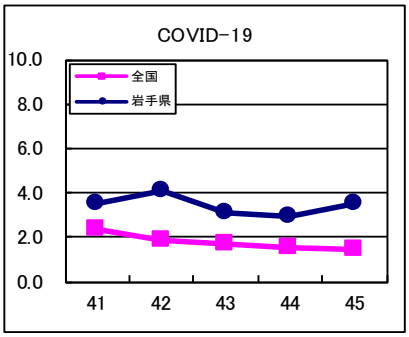












定点把握対象疾患（過去５週の動き）

報告週対応表 https://www.niid.go.jp/niid/ja/calendar.html

※2023年第19週より新型コロナウイルス感染症が定点把握対象疾患となりました。
※2018年1月1日より百日咳が5類感染症（定点把握疾患）から5類感染症（全数把握疾患）へ変更されました。
※2013年第42週より感染性胃腸炎（ロタウイルス）が定点把握対象疾患となりました。

（定点あたり患者数）

疾病名	地域	週 41	42	43	44	45	流行傾向	
インフルエンザ	岩手県	0.06	0.08	0.52	0.67	0.33	↘	☆
	全国	0.89	0.73	0.87	1.04	1.06		
RSウイルス感染症	岩手県	0.50	0.10	0.25	0.08	0.15	→	☆
	全国	0.32	0.25	0.24	0.26	0.24		
咽頭結膜熱	岩手県	0.18	0.30	0.28	0.33	0.23	→	☆
	全国	0.22	0.19	0.22	0.25	0.22		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	岩手県	2.50	1.45	1.98	1.68	1.58	→	☆
	全国	2.00	1.70	1.94	1.91	1.68		
感染性胃腸炎	岩手県	2.73	2.48	2.78	3.23	2.63	↘	☆
	全国	2.63	2.29	2.66	2.78	2.45		
水痘	岩手県	0.03	0.03	0.08	0.18	0.20	→	☆
	全国	0.15	0.14	0.20	0.16	0.19		
手足口病	岩手県	16.75	18.75	17.80	17.78	10.13	↘	☆☆☆
	全国	10.78	9.37	8.06	7.70	5.74		
伝染性紅斑	岩手県	0.53	0.38	0.38	0.30	0.23	→	☆
	全国	0.25	0.33	0.33	0.37	0.36		
突発性発疹	岩手県	0.38	0.35	0.40	0.40	0.28	→	☆
	全国	0.25	0.24	0.27	0.25	0.23		
ヘルパンギーナ	岩手県	0.18	0.23	0.13	0.03	0.13	→	☆
	全国	0.38	0.26	0.25	0.19	0.12		
流行性耳下腺炎	岩手県	0.10	0.00	0.08	0.03	0.03	→	
	全国	0.03	0.04	0.03	0.04	0.03		
急性出血性結膜炎	岩手県	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	→	
	全国	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01		
流行性角結膜炎	岩手県	0.00	0.00	0.00	0.00	0.21	↗	☆
	全国	0.50	0.38	0.49	0.49	0.45		
新型コロナウイルス感染症	岩手県	3.51	4.05	3.13	2.95	3.48	↗	☆
	全国	2.38	1.86	1.69	1.57	1.47		
細菌性髄膜炎	岩手県	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	→	
	全国	0.02	0.01	0.03	0.02	0.02		
無菌性髄膜炎	岩手県	0.11	0.05	0.00	0.00	0.00	→	
	全国	0.06	0.04	0.04	0.04	0.04		
マイコプラズマ肺炎	岩手県	1.74	2.00	2.00	1.74	2.16	↗	☆
	全国	1.95	2.01	2.49	2.46	2.43		
クラミジア肺炎（オウム病を除く）	岩手県	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	→	
	全国	0.00	0.01	0.01	0.01	0.00		
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	岩手県	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	→	
	全国	0.01	－	0.00	0.00	0.01		
インフルエンザ（入院患者）※報告数であることに注意	岩手県	1	1	1	2	1		
	全国	96	69	77	101	94		

【流行傾向の見方】
無印　：ほとんど患者が発生していません
☆　　：患者が発生しています
☆☆　：警報値を超えた地区が１～２地区あります
☆☆☆：多くの地区で警報値を超えています

全数把握対象疾患（過去５週の動き）

※ジカウイルス感染症が2016年2月15日から四類感染症に追加されました。

（患者発生数）

分類	疾病名	（週） 41	岩手県 42	43	44	45	累計	全国 45	累計
一類感染症	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	ペスト	0	0	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	結核（ ）内は潜在性結核感染症患者再掲	4 (2)	2 (0)	1 (0)	3 (2)	4 (0)	114 (51)	299	13688
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	中東呼吸器症候群（ＭＥＲＳ）	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ（Ｈ５Ｎ１）	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ（Ｈ７Ｎ９）	0	0	0	0	0	0	0	0
三類	コレラ	0	0	0	0	0	0	0	2
	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	0	0	70
	腸管出血性大腸菌感染症	0	1	1	1	0	68	70	3361
	腸チフス	0	0	0	0	0	0	1	36
	パラチフス	0	0	0	0	0	0	1	6
四類感染症	Ｅ型肝炎	1	0	0	0	0	3	5	454
	ウエストナイル熱（ウエストナイル脳炎を含む）	0	0	0	0	0	0	0	0
	Ａ型肝炎	0	0	0	0	0	0	0	124
	エキノコックス症	0	0	0	0	0	0	0	12
	エムポックス	0	0	0	0	0	0	1	19
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	オウム病	0	0	0	0	0	0	0	4
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	0	11
	キャサヌル森林病	0	0	0	0	0	0	0	0
	Ｑ熱	0	0	0	0	0	0	0	6
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	0
	コクシジオイデス症	0	0	0	0	0	0	0	3
	ジカウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	4
	重症熱性血小板減少症候群（ＳＦＴＳ）	0	0	0	0	0	0	0	113
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	0	2
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	チクングニア熱	0	0	0	0	0	0	0	6
	つつが虫病	0	0	0	0	1	4	11	138
	デング熱	0	0	0	0	0	0	6	207
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ（Ｈ５Ｎ１、Ｈ７Ｎ９を除く）	0	0	0	0	0	0	0	0
	ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	24	482
	日本脳炎	0	0	0	0	0	0	1	7
	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	Ｂウイルス病	0	0	0	0	0	0	0	0
	鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	ブルセラ症	0	0	0	0	0	0	0	4
	ベネゼエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	発疹チフス	0	0	0	0	0	0	0	0
	ボツリヌス症	0	0	0	0	0	0	1	6
	マラリア	0	0	0	0	0	0	0	44
	野兎病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ライム病	0	0	0	0	0	0	0	25
	リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	類鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	2
	レジオネラ症	1	0	0	0	0	20	61	2091
	レプトスピラ症	0	0	0	0	0	0	2	46
	ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0

全数把握対象疾患（続き）（過去５週の動き）

（患者発生数）

分類	疾病名	（週） 41	42	43	44	45	累計	全国 45	累計
		岩手県							
五類感染症	アメーバ赤痢	0	0	0	0	0	3	6	448
	ウイルス性肝炎（A型肝炎及びE型肝炎を除く）	0	0	0	0	0	2	5	193
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1	1	0	1	2	15	32	1913
	急性弛緩性麻痺	0	0	0	0	0	0	0	39
	急性脳炎（ウエストナイル脳炎及び日本脳炎を除く）	0	0	0	0	0	1	8	470
	クリプトスポリジウム症	0	0	0	0	0	0	0	25
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	1	2	144
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	0	0	0	1	11	15	1691
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0	0	3	7	857
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	1	36
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	0	0	2	12	534
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	52
	侵襲性肺炎球菌感染症	0	0	1	0	0	8	31	2023
	水痘（入院例）	1	0	0	0	0	8	6	412
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	梅毒	0	2	0	0	1	43	181	12609
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	0	0	1	2	169
	破傷風	0	0	0	0	0	1	0	74
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	0	1	1	110
	百日咳	0	0	1	0	1	10	109	2805
	風しん	0	0	0	0	0	0	0	5
	麻しん	0	0	0	0	0	0	0	39
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	0	5

今注目の感染症　A群溶血性レンサ球菌咽頭炎と劇症型溶血性レンサ球菌感染症

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、A群溶血性レンサ球菌を原因とする5類感染症定点把握対象疾患です。毎年冬から春にかけて患者が増加する傾向があります。飛沫感染や接触感染により伝播し、症状は、発熱、咽頭痛、全身倦怠感のほか、傷口からの感染によるとみられる蜂窩織炎や壊死性筋膜炎、菌血症等を引き起こすこともあります。稀に引き起こされる劇症型溶血性レンサ球菌感染症は重症例であり、A群溶血性レンサ球菌のほかB群、C群、G群の溶血性レンサ球菌も原因となります。5類感染症全数把握対象疾患に分類されており、敗血症性ショック症状のほか、肝不全、腎不全、呼吸不全の一種である急性呼吸窮迫症候群、播種性血管内凝固症候群、軟部組織炎等への劇的な症状の進行を特徴とし、死亡することがあります。

全国のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は、2023年10月以降増加し、過去10年間の同時期と比べ高いレベルで推移しています（図1）。また、劇症型溶血性レンサ球菌感染症の2024年の届出報告数は、1999年に統計を取り始めて以降最多となり、高齢者を中心に多くなっているほか、妊産婦での報告もあります。

一方、県内のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は、今年の5月以降増加し、過去5年間の同時期と比べ最も多くなっています（図2）。また、劇症型溶血性レンサ球菌感染症の届出報告数は、今週までに11人となり過去5年間と比較し多い状況です。今週の県内保健所管内ごとのA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者数は図3のとおりです。

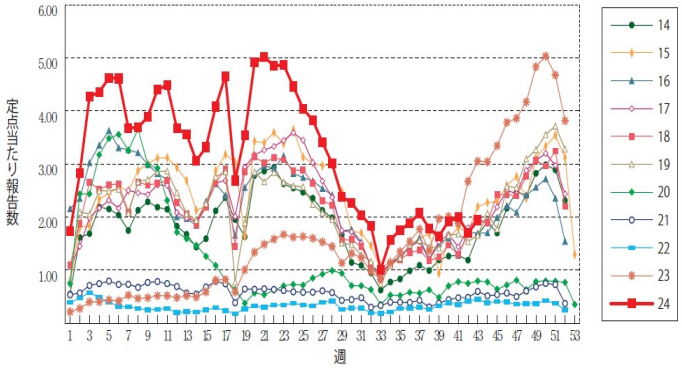


図1 全国のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の発生状況
（2014年～2024年第43週）（国立感染症研究所HPより）

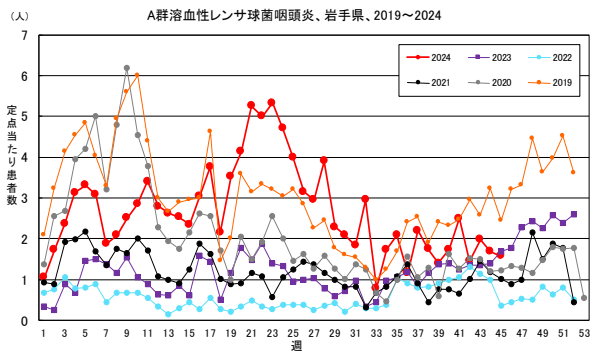


図2 岩手県のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の発生状況
（2019年～2024年第45週）

今注目の感染症

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎と劇症型
溶血性レンサ球菌感染症（続き）

溶血性レンサ球菌は保菌者の飛沫や接触により感染します。特に家庭内では感染が広がりやすいので気を付けましょう。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の予防方法等は以下のとおりです。

（1）手洗い、うがいの励行。手指をアルコール消毒する。
（2）咳エチケット。
（3）溶血性レンサ球菌はアルコールや塩素系消毒剤等の消毒薬で死滅するので、ドアノブやおもちゃ等を清掃消毒する。
（4）タオルの共用は行わない。
（5）傷口の清潔保持。症状がある場合には、早めに受診する。

【参考】
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（国立感染症研究所）
https://www.niid.go.jp/niid/ja/pneumococcal-m/group-a-streptococcus-idwrc/12361-idwrc-2343.html

劇症型溶血性レンサ球菌感染症（厚生労働省）
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000137555_00003.html

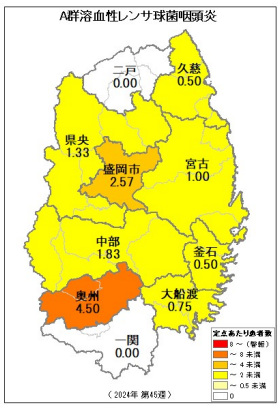


図3 第45週の保健所管内別の状況

※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点国土数値情報（行政区域データ）」をもとに岩手県が編集・加工した。
※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の 数値地図(国土基本情報)電子国土基本図(地図情報)を使用した。（承認番号 平29情使、第675号）

今注目の感染症

マイコプラズマ肺炎

マイコプラズマ肺炎は、肺炎マイコプラズマを原因とする細菌性呼吸器感染症で、小児を中心に秋から冬にかけて流行することが多い疾患です。潜伏期間は通常2～3週間で、感染経路は主に飛沫感染と接触感染であり、濃厚接触の機会が多い学校内や家族内で集団発生が起こることがあります。症状は発熱、頭痛、倦怠感、咳、肺炎、気管支炎を引き起こすほか、中耳炎、胸膜炎、心筋炎、髄膜炎、脳炎等の合併症を併発することがあります。解熱後も長く咳が続くことがあります。菌の排出は症状出現前2～8日に始まり、臨床症状発現時にピークとなり、4～6週間以上排出が続くようです。

全国の発生状況は図１のとおりです。2024年は春（第21週）頃から増加の傾向にあり2016年以来の大きな発生となっています。マイコプラズマ肺炎は以前より3～7年程度の間隔で流行を起こしていましたが、2020年以降はCOVID-19の流行に伴い呼吸器感染症への感染対策が推奨されたこともあり、その報告数は国内で減少していました。しかし、COVID-19への感染対策が緩和されて以降、報告数の増加がみられており、今後さらに報告数が増加していく可能性があると考えられています。

一方、県内の発生状況は図２のとおりです。2024年８月（第33週）頃から小児を中心に増加の傾向にあり、2017年以来の大きな発生になっています。

マイコプラズマ肺炎においては、飛沫感染対策、接触感染対策が有効であることから、手洗い、咳エチケットといった一般的な感染対策とともに、患者との長時間の濃厚な接触を避けることが推奨されます。

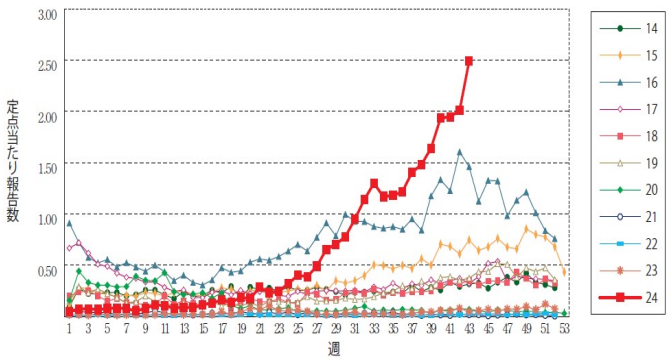


図1 全国のマイコプラズマ肺炎の発生状況
（2014年～2024年第43週）（国立感染症研究所HPより）

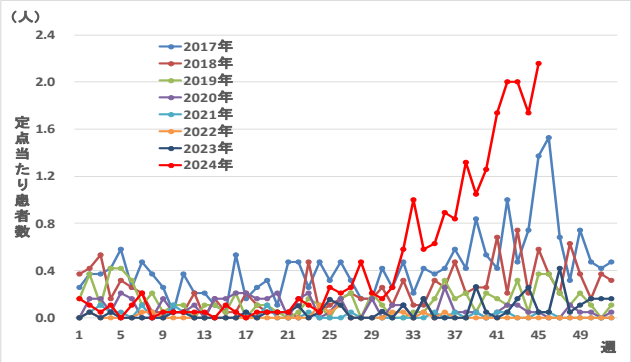


図2 岩手県のマイコプラズマ肺炎の発生状況
（2017年～2024年第45週）

【参考】
マイコプラズマ肺炎の発生状況について（国立感染症研究所）
https://www.niid.go.jp/niid/ja/mycoplasma-pneumonia-m/2662-cepr/12869-mycoplasma-2409.html

今注目の感染症

手足口病とヘルパンギーナ

手足口病は、口腔粘膜及び手や足等に現れる水疱性の発疹を主症状とする急性ウイルス性感染症で、コクサッキーA16（CA16）、コクサッキーA6（CA6）、エンテロウイルス71（EV71）等のエンテロウイルスが原因ウイルスです。

本疾患は4歳位までの幼児を中心に夏季に流行がみられますが、学童でも流行がみられることがあります。流行のピークは夏季ですが、秋から冬にかけても多少の発生がみられることがあります（図1及び2）。

人から人への感染は、主に咽頭から排泄されるウイルスによる飛沫感染で起こりますが、便中に排泄されたウイルスによる経口感染や水疱内容物からの感染等もあります。発病すると、その病因ウイルスに対しての免疫は成立しますが、別のウイルスに対しては免疫は成立しないため、再発することがあります。

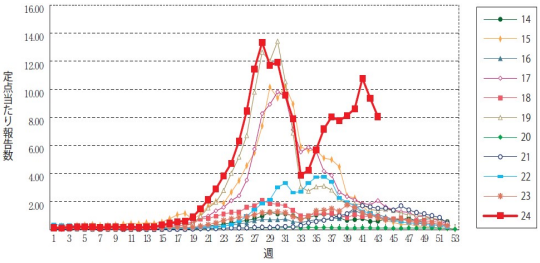


図1 全国の手足口病の発生状況（2014年～2024年第43週）
（国立感染症研究所HPより）

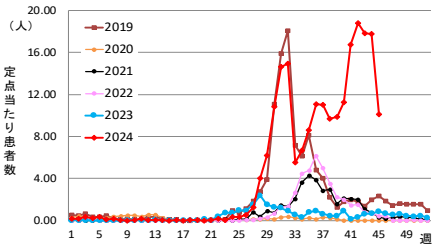


図2 岩手県の手足口病の発生状況
（2019年～2024年第45週）

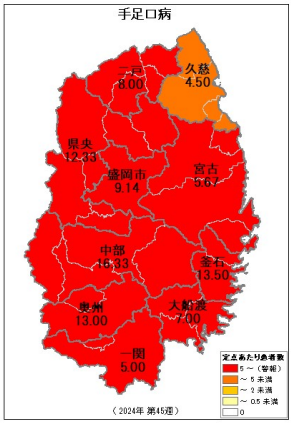


図3 第45週の保健所管内別の状況

※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点国土数値情報（行政区域データ）」をもとに岩手県が編集・加工した。
※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の 数値地図（国土基本情報）電子国土基本図（地図情報）を使用した。（承認番号 平29情使、第675号）

潜伏期間は３～５日で、口腔粘膜、手掌、足底や足背等の四肢末端等に２～３mmの水疱性発疹が出現します。軽度の発熱がみられる場合があり、38℃以下であることがほとんどです。乳幼児では口内の発疹により水分を摂取しにくくなることがあるので水分不足にならないようにすることが重要です。まれに幼児を中心に髄膜炎や脳炎等の中枢神経系合併症を起こすこともあります。

今週の県内保健所管内ごとの定点当たり患者数は図3のとおりです。

手足口病の予防方法は、有症者の接触予防策及び飛沫予防策、手洗いが重要であり、特に有症時だけでなく回復後も排便後の手洗いを徹底してください。

【参考】　手足口病とは（国立感染症研究所）
https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/441-hfmd.html

ヘルパンギーナは、いわゆる夏風邪の代表的な疾患です。主な症状は38℃以上の突然の発熱とのどの痛み、口内に現れる小さな水疱性の発疹です。痛みのため食欲が落ち、乳児の場合はミルクを飲むのを嫌がり、脱水症状を起こしやすくなります。まれに重症化し、髄膜炎や急性心筋炎等を併発する場合があるので、発熱以外に頭痛や嘔吐等の症状が現れていないか注意が必要です。

全国のヘルパンギーナの発生状況は、例年５月頃から増加し始め７月頃にかけてピークを迎えます（図4）。一方、県内のヘルパンギーナの報告数は、全国より遅れて増加し始め、同様の流行形態をとることが多いようです（図4及び5）。今週の県内保健所管内ごとの定点当たり患者数は図6のとおりです。

感染経路、予防方法は手足口病と同様です。

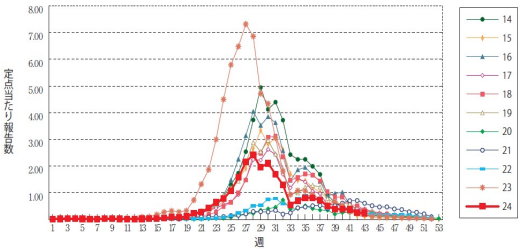


図4 全国のヘルパンギーナの発生状況
（2014年～2024年第43週）
（国立感染症研究所HPより）

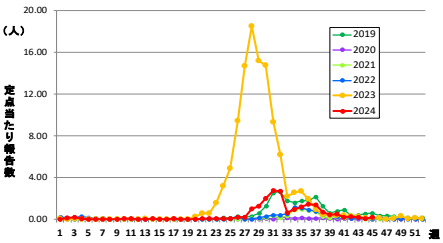


図5 岩手県のヘルパンギーナの発生状況
（2019年～2024年第45週）

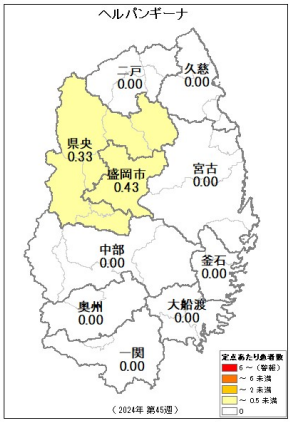


図6 第45週の保健所管内別の状況

※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点国土数値情報（行政区域データ）」をもとに岩手県が編集・加工した。
※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の 数値地図（国土基本情報）電子国土基本図（地図情報）を使用した。（承認番号 平29情使、第675号）

【参考】・ヘルパンギーナとは（国立感染症研究所）
https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/515-herpangina.html

今注目の感染症

新型コロナウイルス感染症

新型コロナウイルス感染症（COVID－19）は、コロナウイルス科ベータコロナウイルス属の新型コロナウイルスによる急性呼吸器症候群です。

2023年第19週（5月8日~14日）から全数把握対象疾患ではなく、五類感染症の定点把握対象疾患となり、県内の発生動向は定点医療機関からの患者数の報告に基づいて公表しています。

2023年第19週以降の国内と県内の定点当たり患者数は図1のとおり、2024年4月から9月までに県内で検出された新型コロナウイルス変異株の解析結果は図２のとおり、2024年第45週の県内保健所管内ごとの定点当たり患者数は図３のとおりです。国内で流行しているKP.３系統が県内でも確認されています。

高齢者や基礎疾患のある方は重症化のリスクがあるので特に注意が必要です。予防には、咳エチケットや手洗い、換気等普段からの感染症予防対策に努めていただくとともに、「3つの密」（換気の悪い密閉空間、人が多数集まる密集場所、間近で会話や発声をする密接場面）を避けるようにしましょう。

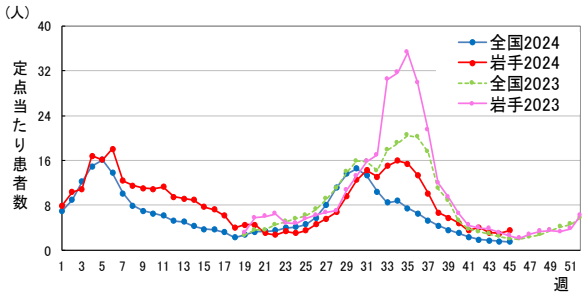


図1　全国及び岩手県の状況（2023年第19週～）

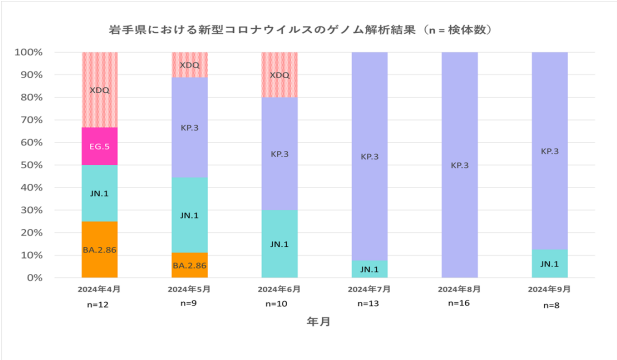


図2　岩手県における新型コロナウイルスゲノム解析結果（2024年４月～９月）

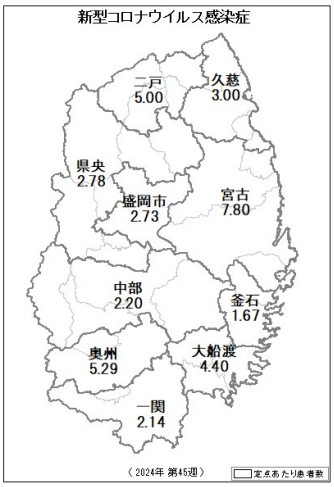


図3　第45週の保健所管内別の状況

※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点国土数値情報（行政区域データ）」をもとに岩手県が編集・加工した。
※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の 数値地図（国土基本情報）電子国土基本図（地図情報）を使用した。（承認番号 平29情使、第675号）

<<岩手県の電話相談窓口>>>

県民医療相談センター　　受付時間　平日9時から16時
TEL：019-629-9620　FAX：019-626-0837

いわて発熱等相談センター　受付時間　平日夜間16時から翌朝9時
及び休日、年末年始
TEL：0570-059-333　FAX：050-3816-3649

「かかりつけ医」がない場合、ご相談ください。

① 発熱等の症状がある場合の健康相談や受診先の相談。

② ワクチンの効果や体への影響、接種後の副反応についての相談。

岩手県の受診・相談（新型コロナウイルス感染症）のホームページはこちら
https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/iryou/covid19/1052939.html

また、新型コロナウイルス感染症の最新情報については、厚生労働省及び国立感染症研究所のホームページで随時更新されています。ご確認をお願いします。

◆参考

新型コロナウイルス感染症について－厚生労働省－
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html
新型コロナウイルス（2019-ｎCoV)関連情報について－国立感染症研究所－
https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ka/corona-virus/2019-ncov/9324-2019-ncov.html
岩手県の新型コロナウイルス感染症関連情報
https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/iryou/covid19/index.html

集団感染情報

○インフルエンザによる学校等の休業措置について（令和6年11月4日から11月10日発表分）

・岩手県　　1件
・盛岡市　　0件

詳細は岩手県医療政策室のホームページをご覧ください。
https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/iryou/kenkou/influ/1060843.html

○新型コロナウイルス感染症によるクラスターの発生について(令和6年11月13日発表分)

・岩手県　6件
・盛岡市　0件

○感染性胃腸炎の集団発生について

・盛岡市保健所管内の教育保育施設（利用者・職員150名以上）
10月17日(木)から10月31日(木)にかけて、利用者12名に症状(嘔吐・下痢等)　有症者9名からエンテロウイルスやヒトパレコウイルス等を検出
・盛岡市保健所管内の教育保育施設（利用者・職員150名以上）
10月21日(月)から10月31日(木)にかけて、利用者17名に症状(嘔吐・下痢等)　有症者8名からアデノウイルスやヒトパレコウイルス等を検出
・県央保健所管内の教育保育施設（園児104名、職員27名）
11月7日(木)から11月11日(月)にかけて、園児14名に症状(嘔吐・下痢等)　有症者7名からノロウイルスを検出

病原体検出情報

・この週には病原体検出情報はありません。

医療機関からの情報

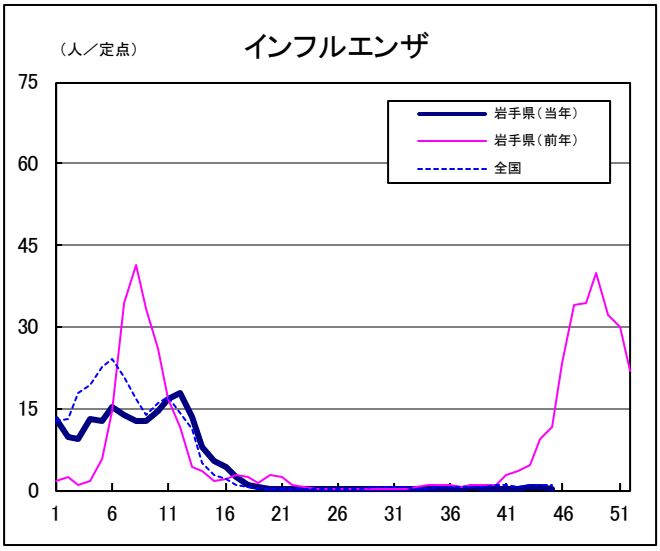
・この週には医療機関からの情報はありません。

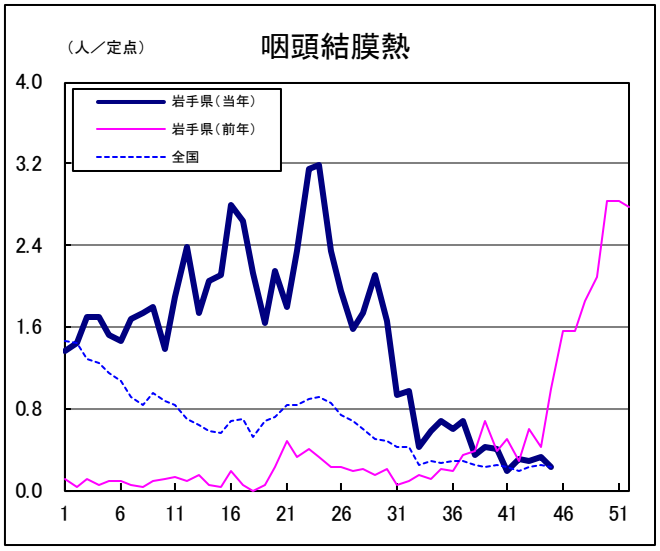
Ｑ　＆　Ａ

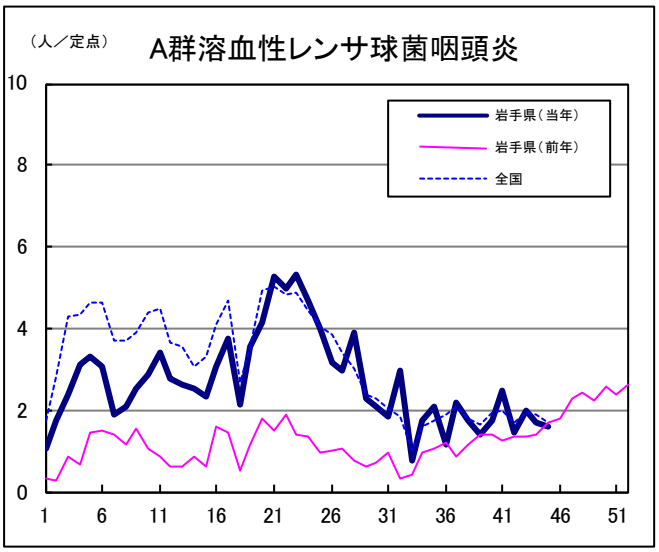
読者の皆様からのご質問にはこの欄でお答えします。

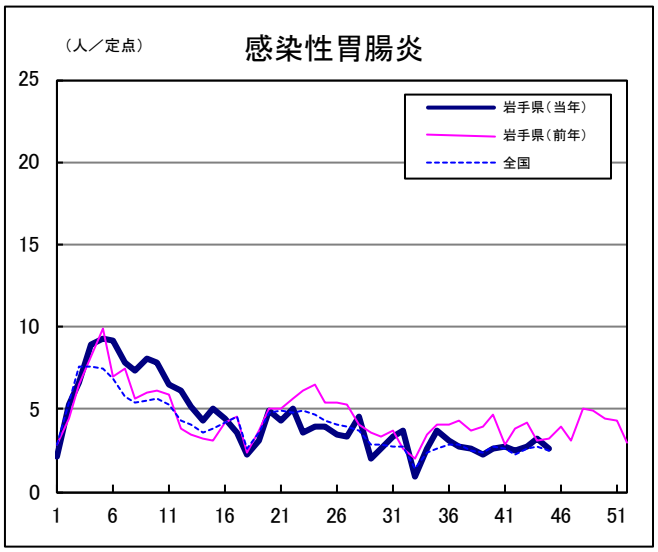
医療機関からの情報や読者の皆様からのご質問は下記の宛先までお寄せください。
岩手県感染症情報センター（岩手県環境保健研究センター保健科学部内）
〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16
TEL:019-656-5669（直通）　FAX:019-656-5667
E-mail：CC0019@pref.iwate.jp

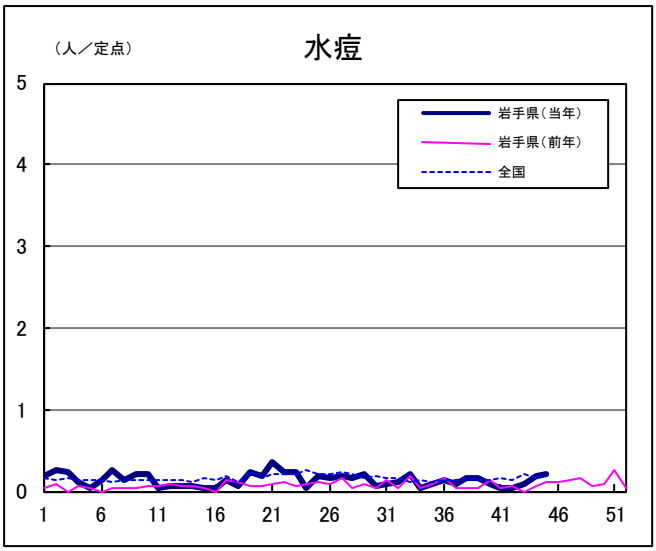
疾病別グラフ（定点あたり患者数の推移）

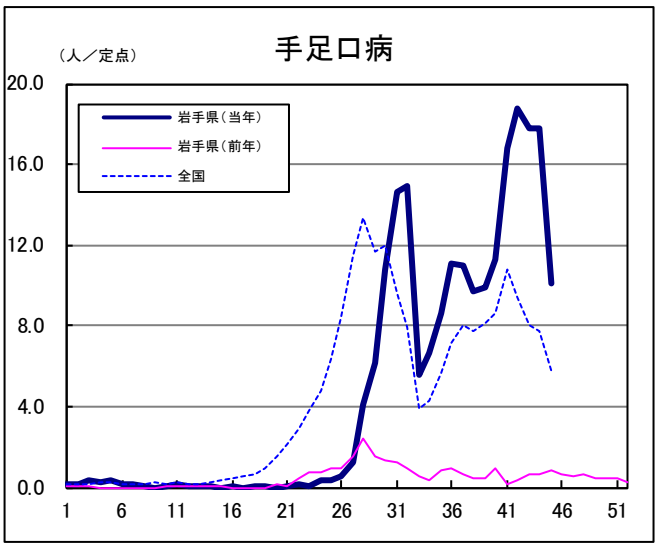


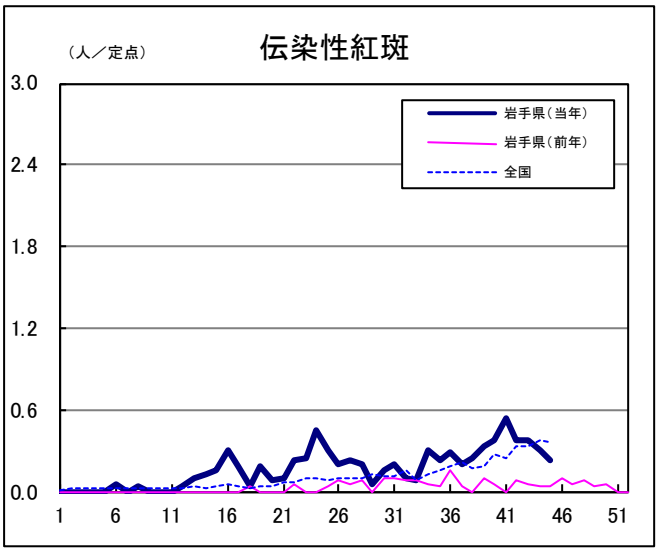


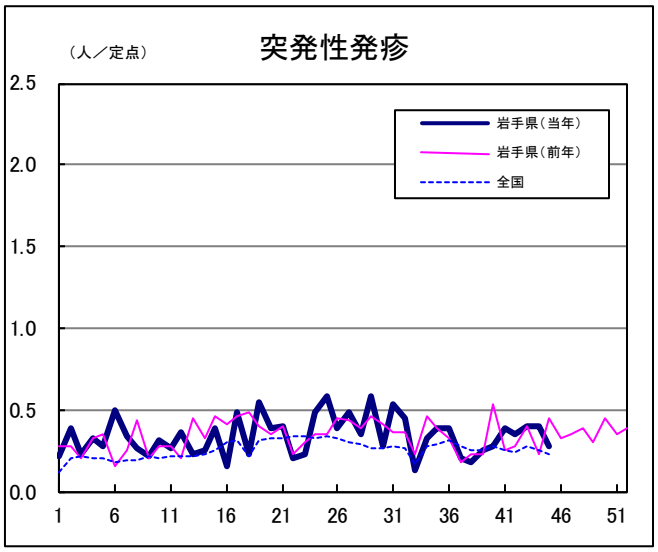


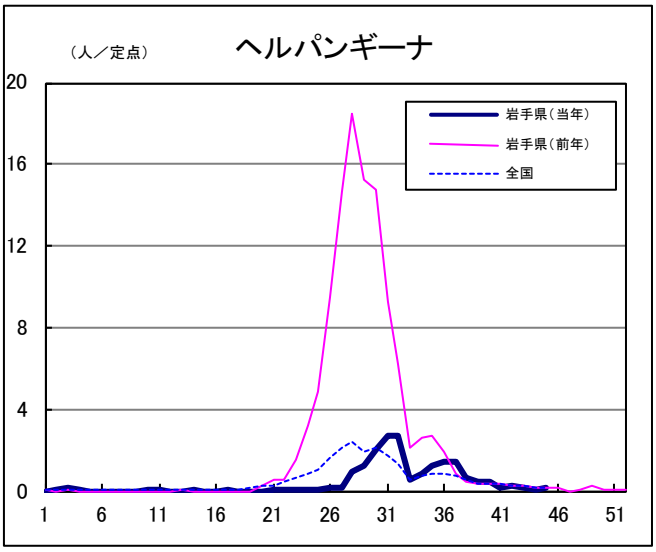


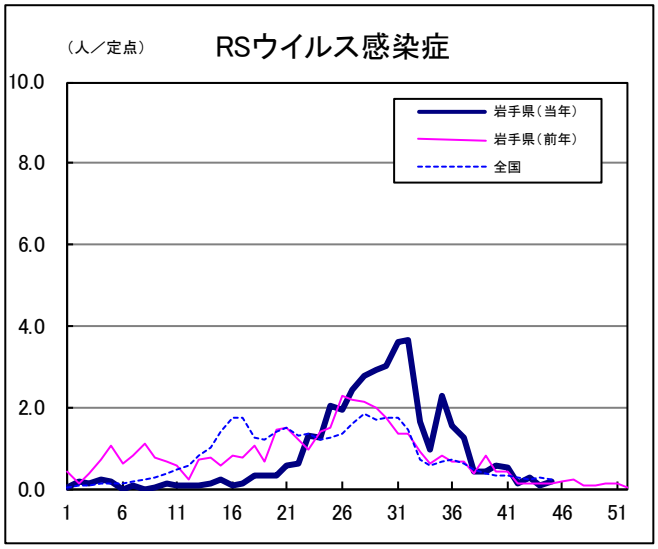


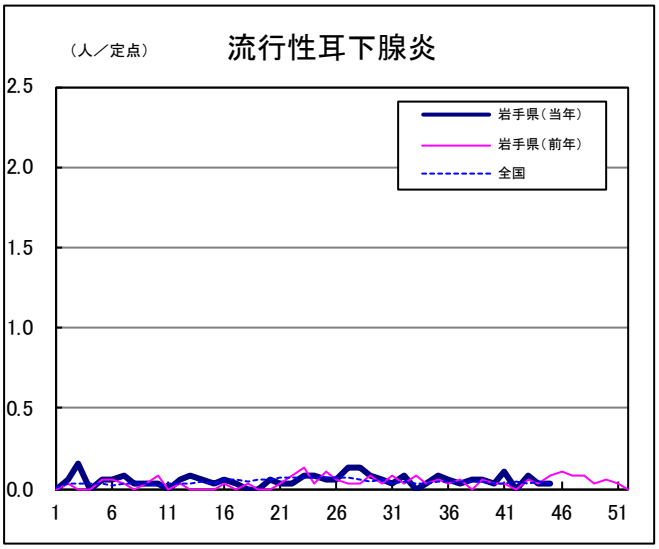


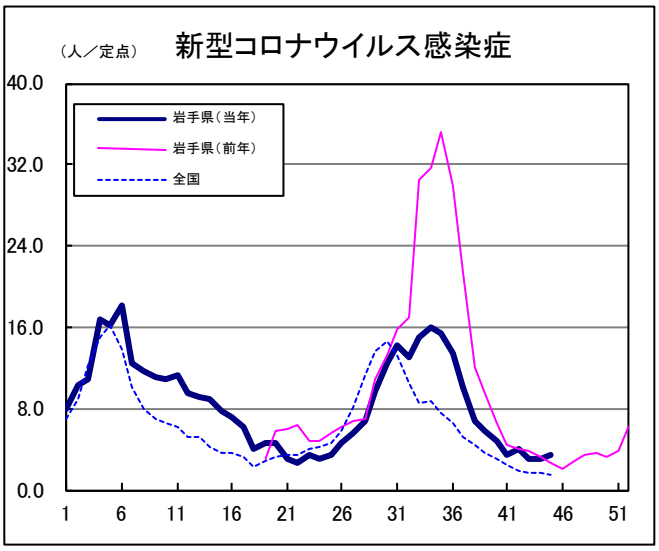

伝染性紅斑
（人／定点）
3.0
2.4
1.8
1.2
0.6
0.0
1 6 11 16 21 26 31 36 41 46 51
岩手県（当年）
岩手県（前年）
全国

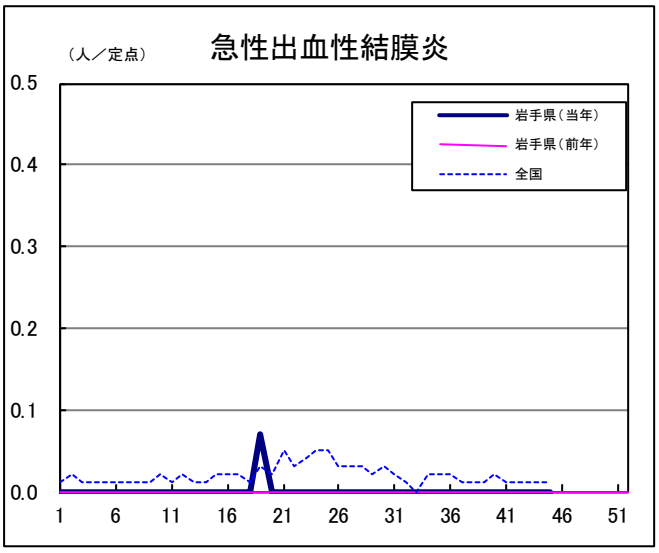

突発性発疹
（人／定点）
2.5
2.0
1.5
1.0
0.5
0.0
1 6 11 16 21 26 31 36 41 46 51
岩手県（当年）
岩手県（前年）
全国

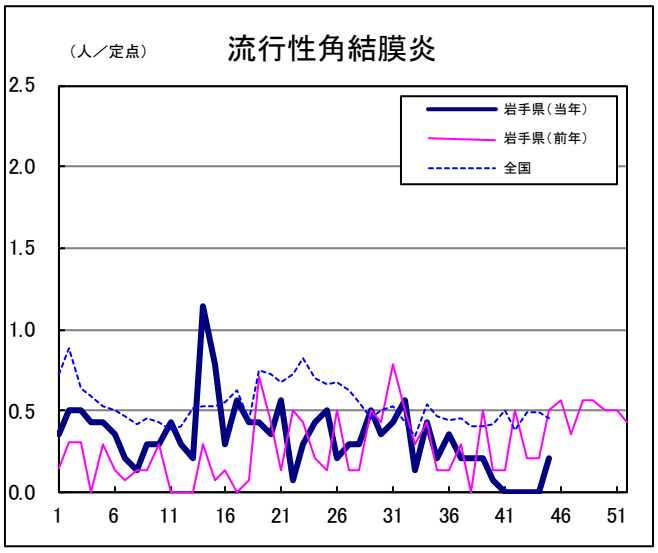

ヘルパンギーナ
（人／定点）
20
16
12
8
4
0
1 6 11 16 21 26 31 36 41 46 51
岩手県（当年）
岩手県（前年）
全国

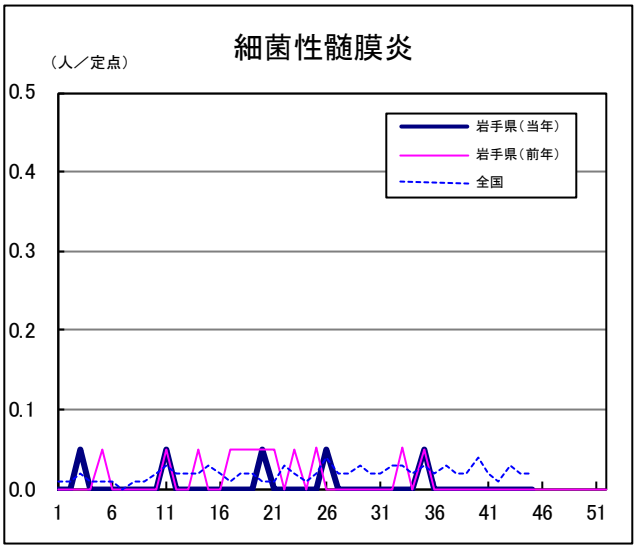

RSウイルス感染症
（人／定点）
10.0
8.0
6.0
4.0
2.0
0.0
1 6 11 16 21 26 31 36 41 46 51
岩手県（当年）
岩手県（前年）
全国

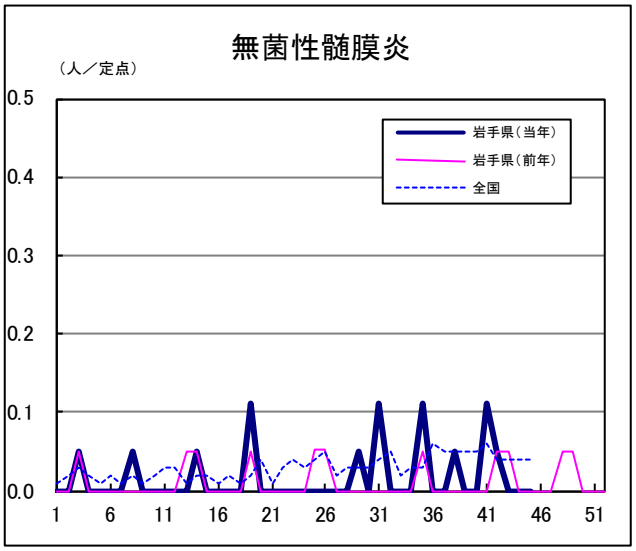

流行性耳下腺炎
（人／定点）
2.5
2.0
1.5
1.0
0.5
0.0
1 6 11 16 21 26 31 36 41 46 51
岩手県（当年）
岩手県（前年）
全国

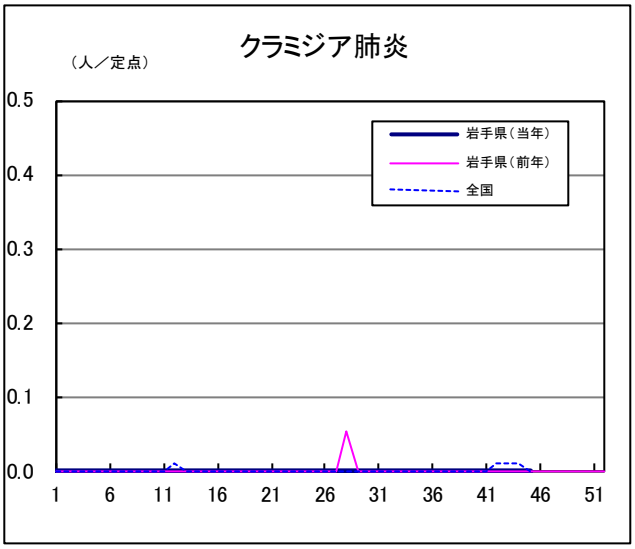

新型コロナウイルス感染症
（人／定点）
40.0
32.0
24.0
16.0
8.0
0.0
1 6 11 16 21 26 31 36 41 46 51
岩手県（当年）
岩手県（前年）
全国

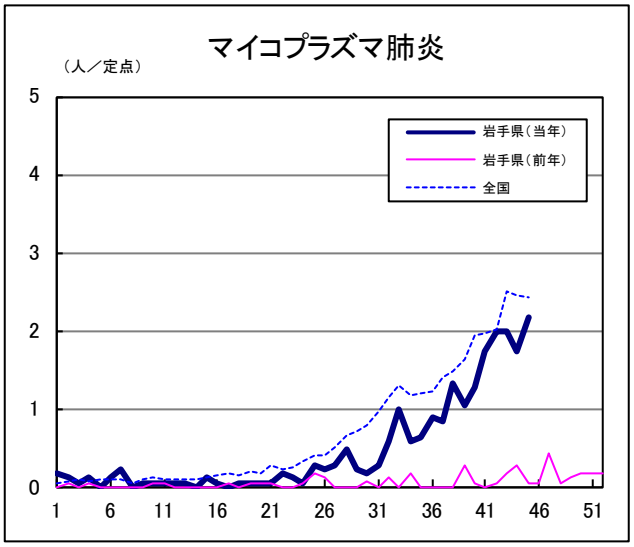

急性出血性結膜炎
（人／定点）
0.5
0.4
0.3
0.2
0.1
0.0
1 6 11 16 21 26 31 36 41 46 51
岩手県（当年）
岩手県（前年）
全国


流行性角結膜炎
（人／定点）
2.5
2.0
1.5
1.0
0.5
0.0
1 6 11 16 21 26 31 36 41 46 51
岩手県（当年）
岩手県（前年）
全国


細菌性髄膜炎
（人／定点）
0.5
0.4
0.3
0.2
0.1
0.0
1 6 11 16 21 26 31 36 41 46 51
岩手県（当年）
岩手県（前年）
全国


無菌性髄膜炎
（人／定点）
0.5
0.4
0.3
0.2
0.1
0.0
1 6 11 16 21 26 31 36 41 46 51
岩手県（当年）
岩手県（前年）
全国


クラミジア肺炎
（人／定点）
0.5
0.4
0.3
0.2
0.1
0.0
1 6 11 16 21 26 31 36 41 46 51
岩手県（当年）
岩手県（前年）
全国


マイコプラズマ肺炎
（人／定点）
5
4
3
2
1
0
1 6 11 16 21 26 31 36 41 46 51
岩手県（当年）
岩手県（前年）
全国

定点医療機関の数

定点種別 / 地区	インフルエンザ/COVID-19	小児科定点	眼科定点	基幹定点
岩手県	63	40	14	19
盛岡市	11	7	3	4
県央	9	6	2	1
中部	10	6	2	4
奥州	7	4	1	2
一関	7	4	1	2
大船渡	5	4	1	1
釜石	3	2	1	1
宮古	5	3	1	1
久慈	3	2	1	1
二戸	3	2	1	2

無料です!!

岩手の感染症情報を毎週メールでお届けする

「岩手県感染症情報ウィークリーマガジン」を配信しています。

配信の登録は以下のURLからお願いします。

https://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/mailmagazine.html

岩手県感染症週報　令和６年第４５週　令和６年１１月１５日発行
監　修　：岩手県感染症発生動向調査協議会
発　行　：岩手県環境保健研究センター
岩手県保健福祉部医療政策室
事務局　：岩手県感染症情報センター
（岩手県環境保健研究センター保健科学部内）
〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16
TEL:019-656-5669（直通）　FAX:019-656-5667
E-mail：CC0019@pref.iwate.jp
URL　：https://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/
＜岩手県感染症情報センター＞
https://www.pref.iwate.jp/soshiki/hofuku/1016013.html
＜岩手県保健福祉部医療政策室＞